

現状及び開催の目的

- 待機児童数が着実に減少を続けており、今後は地域の特性に応じた支援を進めていくため、令和2年12月21日に「新子育て安心プラン」を取りまとめた。
 - 一方で、子どもの数や生産年齢人口の減少、地域のつながりの希薄化等を踏まえ、地域における保育の提供の在り方を検討することが必要。
- ⇒ **中長期的な視座に立って、今後の保育所や保育士等の在り方について検討（子ども家庭局長が参集）。**

検討事項・スケジュール

- (1) 地域における保育所等の役割に関すること
 - (2) 今後の地域・社会情勢を踏まえた保育士等の在り方や確保方策に関すること
 - (3) その他保育所や保育士等の在り方に関すること
- 上記について、本年5月26日（水）以降、複数回開催し、年内にとりまとめ予定。

参考：人口減少地域における保育に関する主な指摘

少子化社会対策大綱（令和2年5月29日閣議決定）（抄）

- 1-1 (3) 男女共に仕事と子育てを両立できる環境の整備
 (保育の受け皿整備の一層の加速)
- 地域の実情に応じた保育の実施
- ・ **人口減少地域等における保育の在り方についての検討を進める。**

子ども・子育て支援新制度施行後5年の見直しに係る対応方針について（令和元年12月10日子ども・子育て会議）（抄）

- (9) 都市部とは違った形での人材確保対策など、人口減少地域における保育の継続のための支援策
- 地域ごとに異なる具体的状況に応じた保育の在り方については、少子高齢化の急速な進行も踏まえ、離島・へき地を含めた人口減少地域等における保育に関するニーズの見通しや取組事例を把握するための実態調査の実施など、その実態の把握や対応策として何が考えられるかの検討に着手すべきである。**また、保育所等の空きスペースを活用した児童発達支援の実施の方策なども検討すべきである。

1. 人口減少地域等における保育所の在り方

- 今後、人口減少地域の拡大が想定される中、人口減少地域等において必要な保育を確保していくための方策についてどのように考えるか。
- 各市町村では、保育所等の統廃合・規模縮小、公立保育所の在り方の検討などの対応が必要となり得るが、地域毎に状況が異なることに留意しつつ、どのような対応が考えられるか。

2. 保育所・保育士による地域の子育て支援

- 地域で子育て世帯が孤立しないために、保育所等を利用していない子育て世帯に対して、保育所が担うべき役割や関係機関との連携についてどのように考えるか。
- その際、保育士の負担に配慮しつつ、保育士の専門性を活かした支援としてはどのようなものが考えられるか。

3. 多様なニーズを抱えた保護者・子どもへの支援

- 一時預かりについて、必要とする人がより利用できるようにするための方策についてどのように考えるか。
- 医療的ケア児、障害児、外国籍の子どもや、家庭環境に特別な配慮が必要な家庭の子どもなど、保育の現場で多様化するニーズについて、待機児童解消の観点も踏まえ、その受け入れや必要な支援を進めるための方策について、どのように考えるか。

4. 保育士の確保・資質向上

- 生産年齢人口の急減や地域の子育て支援における保育所の役割を踏まえた、保育士の量的確保策や資質の向上策についてどのように考えるか。
- わいせつ行為を行った保育士の対策について、教員の取扱い等を踏まえ、どのように考えるか。